



テキサスの思い出

公益財団法人 資本市場研究会
理事

日出島恒夫

1985年9月、その頃大蔵省からJETRO（現在の日本貿易振興機構）に出向し、3年ほどアメリカのテキサス州ヒューストンに住んでいた。

ある日突然、竹下大蔵大臣がニューヨークへの途次、ヒューストンの空港に立ち寄られるという連絡があった。乗り換えまでの時間を、空港内の特別室でお相手させていただいた。大臣は疲れたご様子もなくテキサスの政治家などについてお尋ねになられた。

当時はレーガン大統領2期目で、アメリカは貿易・財政の双子の赤字、高金利下で経済は停滞していた。エズラ・ヴォーゲル教授の「ジャパン・アズ・ナンバーワン」がその前に出版されていた。日本製自動車がハンマーで叩き潰されるパフォーマンスや、“リメンバー・パールハーバー”と書かれた車が走るなど、ジャパン・バッシングの様相であった。

当時、副大統領はジョージH.W.ブッシュであった（父ブッシュ）。生まれは東部だが、ヒューストンで石油掘削関連ビジネスを起し、当地から下院選挙に出馬、レーガン大統領1、2期を通じ副大統領で、後に共和党大統領。その子G.H.ブッシュも後にテキサス州知事を経て大統領。

財務長官はJ.ベーカーでヒューストン出身の弁護士、父ブッシュが最初に出馬時の選挙参謀でB-Bコンビと呼ばれ、後日、父ブッシュ大統領

時には国務長官。

ベンツェン上院財政委員長（民主党）もテキサス出身で、貿易摩擦問題の対日強硬派であり、そうした話



題や石油、ハイテクなどの地元産業についてご説明を申し上げた。

大臣が発たれるまで、直接お話しした数時間は思い出に残るものであった。いま振り返ってみて、その出張の結果としてのプラザ合意がその後の日本経済に極めて大きな影響を与え、今日に至っているのだと思うと、私には単に過ぎ去った空港での一出来事とは思えないのである。

テキサスは、州の面積がアラスカ州に次いで2番目に広く、日本の1.7倍である。その殆どが緑の大平原で、今やアメリカ第三の経済圏となっている。トヨタ自動車ダラス近郊のプレイノ市に北米の拠点を移している。また、JR東海（英語名；JR CENTRAL）が技術協力するヒューストン——ダラス間のテキサス新幹線建設の話も注目される。